

展示室1 ホガース vs アカデミシャン



ウィリアム・ホガース
《ビール街とジン小路 ジン小路》

ウィリアム・ホガース（1697-1764）は「イギリス絵画の父」と呼ばれています。彼は当時、イギリス美術界で議論されていたロイヤル・アカデミーの創設には反対でした。それは、このアカデミーがフランスなど外国のそれに倣ったもので、神話や聖書などに題材をとった伝統的な歴史画を推奨していたからです。

ホガースの死から4年後の1768年、当時の国王ジョージ3世の署名を得て、ロイヤル・アカデミーが創設されました。初代会長は、レイノルズです。その後、このアカデミーからターナー、コンスタブルといった風景画の巨匠が活躍することになりました。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
●ウィリアム・ホガース			
ウィリアム・ホガース	『当世風結婚』より6点	1745	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	サミュエル・マーティンの肖像	1758-60頃	油彩・キャンバス
ウィリアム・ホガース	ビール街とジン小路 ジン小路	1750-51	エッチング、エングレーヴィング・紙
ウィリアム・ホガース	ビール街とジン小路 ビール街	1750-51	エッチング、エングレーヴィング・紙
ウィリアム・ホガース	誤った遠近法		エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	美の分析Ⅰ	1753	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	美の分析Ⅱ	1753	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	性格と戯画	1743	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	卵を割るコロンプス	1752	エッチング・紙
ウィリアム・ホガース	「選挙」第3図 投票日		エッチング・紙
●アカデミシャン			
サー・ジョシュア・レイノルズ	キティ・フィッシャーの肖像習作	1760-62頃	油彩・キャンバス
サー・ジョシュア・レイノルズ	エグリントン伯爵夫人、ジェーンの肖像	1777	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	荷馬車のある丘陵地帯の森の風景	1745-46頃	油彩・キャンバス
トマス・ゲインズボロ	オース夫人の肖像	1767	油彩・キャンバス
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	カンバーランド州のコールドー・ブリッジ	1810	油彩・キャンバス
ジョン・コンスタブル	デダムの谷	1802	油彩・紙、キャンバス
●当館名品選			
サー・エドワード・コーリー・バーン＝ジョーンズ	フローラ	1868-84	油彩・キャンバス

展示室2 日本水彩画の魅力



三宅克己《箱根》

18-19世紀、特にイギリスで広く普及した水彩画が、日本で本格的に取り上げられ始めたのは明治のことでした。明治20年代、アルフレッド・イーストやアルフレッド・パーソンズ、ジョン・ヴァーレー・ジュニアらイギリスの画家たちが来日し、各地の風景を水彩で描いて展覧会を開きました。それに感銘を受けた三宅克己や大下藤次郎は水彩画に深く傾倒していきます。生涯をかけて水彩画を描いた彼らの作品からは、表現のための技法の追求のみならず、水彩画に対する愛情が感じられるでしょう。彼らの活躍は、その後の日本の水彩画普及への大きな力となりました。

やわらかな色彩と生き生きとした筆致が、四季折々の自然や人々の暮らしを豊かに表現する作品をお楽しみください。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
サー・アルフレッド・イースト	雨後の傘干し	1889 頃	水彩・紙
アルフレッド・ウィリアム・パーソンズ	鎌倉の茶店		グワッシュ・紙
ジョン・ヴァーレー・ジュニア	宮島の街並	1890	水彩・紙
三宅克己	渋谷村天現寺附近の茶店	1893 (明治 26)	水彩・紙
三宅克己	箱根		水彩・紙
大下藤次郎	蓮池		水彩・紙
大下藤次郎	舟のある風景	1906 (明治 39)	水彩・紙
石川欽一郎	信州の田舎		水彩・紙
石川欽一郎	牛荘 (NEWCHWANG)		水彩・紙
南 薫造	川べりの家		水彩・紙
南 薫造	日没		水彩・紙
牧野義雄	セント・ジョン・ザ・ディヴァイン大聖堂	1924 (大正 13)	水彩・紙
牧野義雄	ハドソン川上流	1926 (大正 15)	水彩・紙
丸山晚霞	霜晴れの高原		水彩・紙
丸山晚霞	少女のいる風景、春		水彩・紙
中川八郎	早春		水彩・紙
中川八郎	おぼろ月夜		水彩・紙
吉田 博	風景	1894-99 (明治 27-32) 頃	水彩・紙
吉田 博	村里の子供たち (岩戸)	1901-03 (明治 34-36) 頃	水彩・紙
五百城文哉	日光		水彩・紙
原 撫松	木春菊		水彩、鉛筆・紙 原優子氏寄贈
原 撫松	桔梗		水彩、鉛筆・紙 原優子氏寄贈
五姓田芳柳 (二世)	月の瀬・奥の谷		水彩・紙
五姓田芳柳 (二世)	妙義山第一門		水彩・紙
河合新蔵	ノウゼンカズラのある宿場		水彩・紙
鹿子木孟郎	水車小屋		水彩・紙

展示室 3 加藤太郎とその周辺



加藤太郎《朴》

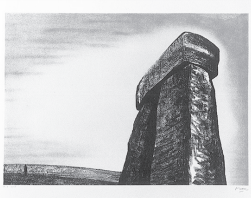
神戸に生まれ、東京で活動した加藤太郎 (1915-1945) は、早くから白日会に油彩画が入選し、東京美術学校油画科に入学すると木版画も学び、日本版画協会に入選するなど早くから将来を囑望されていました。また、同級生たちとグループ〈貌〉を結成して戦前の日本の前衛美術運動に足跡を残しています。

しかし 1945 (昭和 20) 年、終戦を待たずに 30 歳で没しました。今回はわずかに遺された貴重な作品とともに、〈貌〉をはじめとして彼と同時代を生きた画家たちの作品を展示します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
加藤太郎	アネモネ		油彩・板 長谷川保裕氏寄贈
加藤太郎	無題		木版・紙 長谷川保裕氏寄贈
加藤太郎	百合		木版・紙
加藤太郎	オバコ	1944 (昭和 19)	木版・紙
加藤太郎	朴		木版・紙
加藤太郎	朴 (下絵)		水彩、ボールペン・紙 長谷川保裕氏寄贈
加藤太郎	植物デッサン		鉛筆・紙 長谷川保裕氏寄贈
加藤太郎	製縄機		油彩・ガラス 加藤勇氏寄贈
加藤太郎	『JEU D'OBJET 1』	1945 (昭和 20)	木版・紙／本 日向綾氏寄贈
加藤太郎	『JEU D'OBJET 2』	1945 (昭和 20)	木版・紙／本 日向綾氏寄贈
加藤太郎	『一木会豆版画帖 博物譜』より 5 点	1950 (昭和 25)	木版・紙／本
杉原正巳	チャンドラ・ポーズ	1943 (昭和 18)	木版・紙 吉留直輝氏寄贈
杉原正巳	愛書票	1943 (昭和 18)	木版・紙 吉留直輝氏寄贈
杉原正巳	暑中見舞	1937 (昭和 12)	木版・紙 吉留直輝氏寄贈

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
鎌田正蔵	無題	1949 (昭和 24)	鉛筆、スクラッチング・印画紙	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	無題	1949 (昭和 24) 頃	鉛筆、フロッタージュ・印画紙	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	無題	1949 (昭和 24) 頃	鉛筆、フロッタージュ・紙	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	無題	1949 (昭和 24)	鉛筆、フロッタージュ、スクラッチング・印画紙	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	魔の山	1938 (昭和 13) 頃	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
鎌田正蔵	白日夢	1938 (昭和 13)	油彩・キャンバス	鎌田正蔵氏寄贈
杉全直	ふたりの肖像	1949 (昭和 24)	油彩・キャンバス	
杉原正巳	『一木会豆版画帖 博物譜』より 5点	1950 (昭和 25)	木版・紙/本	
杉全直	鉄筆デッサン (『JEU X D'ESPRIT』第 6 号)	1939 (昭和 14) 刊	謄写版・紙/本	鎌田正蔵氏寄贈
杉原正巳	ハイヒールの殺人 (『JEU X D'ESPRIT』第 7 号)	1939 (昭和 14) 刊	木版・紙/本	鎌田正蔵氏寄贈
杉全直	デッサン (『JEU X D'ESPRIT』第 8 号)	1939 (昭和 14) 刊	謄写版・紙/本	鎌田正蔵氏寄贈
平澤熊一	発芽	1938 (昭和 13) 頃	油彩・板	平澤三之助氏寄贈
白木正一	虫囊	1948 (昭和 23)	油彩・キャンバス	
白木正一	予感	1955 (昭和 30)	油彩・キャンバス	
早瀬龍江	營	1940 (昭和 15)	油彩・キャンバス	
早瀬龍江	似而非宗教	1953 (昭和 28)	油彩・キャンバス	白木正一氏寄贈
吉井忠	私は輝く水平線を見る	1938 (昭和 13)	インク、水彩、コラージュ・紙	吉井忠氏寄贈
吉井忠	落日	1938 (昭和 13)	インク・紙	吉井忠氏寄贈
吉井忠	手のある風景	1937 (昭和 12)	インク・紙	吉井忠氏寄贈
吉井忠	はさみと月	1938 (昭和 13)	インク・紙	吉井忠氏寄贈
吉井忠	滝口氏による灯	1938 (昭和 13)	インク、水彩・紙	吉井忠氏寄贈
瑛九	作品 3 「方向」	1936 (昭和 11)	デカルコマニー・紙	
瑛九	作品 26 「フォトデッサン」 ("Profile-2")		印画紙	

展示室 4-① ヘンリー・ムーアの版画



『ストーンヘンジ』より

ヘンリー・ムーア (1898-1986) は 20 世紀を代表するイギリス出身の彫刻家です。彼は「生命の尊厳」「自然への回帰」「人間愛」などをテーマに、抽象、具象を超越した独自の形態によって現代彫刻史に確固たる地位を築きました。

ムーアは彫刻制作のかたわら、素描や版画作品も数多く手がけています。彼にとって素描や版画は、彫刻の構想を練るうえで重要な創作活動の一つでありました。

今回は彫刻家ヘンリー・ムーアが、晩年に制作した代表的な版画作品を紹介します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質
ヘンリー・ムーア	『エレファント・スカル・アルバム』より 10 点	1970	エッチング・紙 / ポートフォリオ
ヘンリー・ムーア	『オーデン詩集』 edition(B)	1973	リトグラフ・紙 / 本
ヘンリー・ムーア	『ストーンヘンジ』より 7 点	1974	リトグラフ・紙 / ポートフォリオ
ヘンリー・ムーア	『スカルプチャー・アイデア』より 5 点	1980	エッチング、アクアチント・紙 / ポートフォリオ
ヘンリー・ムーア	座る人体：スカート	1980	ブロンズ

展示室 4-② 佐藤潤四郎—タンブラーと新収蔵品を中心に—



『リュトン・ガラスの神様』

郡山市出身のガラス工芸家・佐藤潤四郎 (1907-1988) は、後輩の工芸家、デザイナーたちに「陶磁器なら飯茶碗、木工や漆なら汁碗、ガラスならタンブラーがデザインできなければ一人前じゃない」と話していたそうです。これらはみな日常の食事です。この身近な器—タンブラーこそが潤四郎のデザイン哲学の基本となっています。扱いやすい形と大きさ、その制限がありながらもプランツやグラヴェールといった技法を駆使したデザインのタンブラーが生まれてきました。

今回は、そのタンブラーはじめルーマー杯などの飲食器を中心に、新たに収蔵した作品を交えて展示します。

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
佐藤潤四郎	ステンドグラス《仏足跡》		ガラス、鉄	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	リュトン《ガラスの神様》	1984（昭和 59）頃	ガラス／宙吹・グラヴェール	福永香氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー 20 点		ガラス／型吹ほか	佐藤久枝氏寄贈
佐藤潤四郎	グリーンタンブラー		ガラス／型吹・プランツ	林王健治氏寄贈
佐藤潤四郎	タンブラー（スモークグラス・2 点組）			ガラス／型吹き
佐藤潤四郎	ルーマー杯《大好きな形》		ガラス／宙吹・プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯《なみなみのワインを》		ガラス／宙吹・グラヴェール、プランツ	
佐藤潤四郎	ルーマー杯（グリーン）		ガラス／宙吹・プランツ、雲母封入	石川和子氏、長谷川貴子氏寄贈
佐藤潤四郎	水指（カットグラス）	1986（昭和 61）	ガラス／型吹・カット	
佐藤潤四郎	水指《魚》	1986（昭和 61）	ガラス／型吹	
佐藤潤四郎	水指（プランツ）	1986（昭和 61）	ガラス／型吹・プランツ	
佐藤潤四郎	アイスクリーム皿		ガラス／宙吹	大方龍子氏寄贈
佐藤潤四郎	皿（グリーン）		ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎	ボウル（グリーン）		ガラス／宙吹	
佐藤潤四郎デザイン／ カガミクリスタル制作	ウイスキーボトル「インペリアル」		ガラス／機械生産	サントリー(株)提供
佐藤潤四郎デザイン／ カガミクリスタル制作	「スーパーニッカ」手吹きボトル	1962（昭和 37）頃	ガラス／宙吹	川崎清氏寄贈
佐藤潤四郎	ペーパーウエイト《鍵》		ガラス／サンドキャスト	福永香氏寄贈
佐藤潤四郎	龍文花器		ガラス／宙吹・グラヴェール	福永香氏寄贈
佐藤潤四郎	クリスタル花器		ガラス／宙吹・プランツ	福永香氏寄贈
佐藤潤四郎	三角一輪挿し（グリーン）		ガラス／型吹	
佐藤潤四郎	四角一輪挿し（グリーン）		ガラス／型吹	
佐藤潤四郎	陶板・窯座		陶器	福永香氏寄贈
佐藤潤四郎	陶板・五輪塔		陶器	福永香氏寄贈
佐藤潤四郎	陶板		陶器	福永香氏寄贈
佐藤潤四郎	陶牌	1964（昭和 39）頃	陶器	福永香氏寄贈

ロビー展示 彫刻・他

作者名	作品名	制作年	技法・材質	
● 1 階				
笠置季男	躍進	1958（昭和 33）	セメント	
アントニー・ゴームリー	量子雲 XXIII	2000	ステンレス・スチール棒	
アントニー・ゴームリー	領域 XIII	2000	ステンレス・スチール棒	
● 2 階展示ロビー				
舟越保武	少女	1956（昭和 31）	砂岩	
柳原義達	女の首	1958（昭和 33）	ブロンズ	
細川宗英	道元	1988（昭和 63）	ブロンズ	
堀内正和	顔	1955（昭和 30）	鉄、セメント	
● 前庭				
バリー・フラナガン	野兎と鐘	1988	ブロンズ	